

模擬授業研究会の斉藤メモ(2019年1月16日)

授業者：〇〇

範囲：安楽死と自己決定権について

主な感想・代案

- まず初めに、二回目の模擬授業、お疲れ様でした。強制されていない状況において、50分の授業を前向きに楽しそうに準備してくれる姿勢。これは本当に大切だと思います。教師になったとしても間違いなく生きる力だと思います。
- 〇〇君の授業が、〇〇君の想いのこもった授業だということはよく伝わってきました。前の授業をした際に、私が書いたコメントを見返してみました。

倫理の授業では、先哲の思想や現代の諸問題を通して、自分の生き方・考え方と向き合うことが求められる場合がよくあります。その場合、自分がどのような価値を優先して考えているのか？という点を対象とした授業にするのが良いような気がします。賛成か反対かを選んだり、生徒同士で議論をすると、一見すると、自分を見つめなおすような気もしますが、それだけでは中々背後にある価値観は見えてきません。

- この指摘を踏まえた授業をしたかどうかは全く問題ではありません。ただ、今回の〇〇君の授業を見た時、やはり、人の人生を丸ごと考えさせる授業になっているような気がして、少しだけ私は違和感を持ちました。倫理という科目のむずかしさはあると思います。ただ、これが道徳ではない以上（最近の道徳も色々ですが）、倫理学や哲学のような学問的・思想的な概念だったり見方を活用しつつ、この問題を考えさせる方がよいのではないか？というのが私の見解です。
- 今回の授業であれば、例えば、総論として（世の中一般として）、制度があった方が良いかという議論と、当事者（関係者）としてどういう制度があった方が良いかという議論を意識的に分けるというか、その立場によって意見が異なってくることを意識させたいと思います。（なぜなら、そういう総論と当事者のなったときの意見が異なる場面は他の制度でもたくさんあるからです。）
- 一方で、今回の内容に関連する軸としては、当事者が決めるという自己決定権をどう捉えるかという点が重要になってくると思います。自己決定権の難しさ、当事者のニーズの把握の難しさを考える「手段として」授業の事例が出てくるイメージの方が良いように思います。今回は、事例が全面に出ており、理解させたい概念や考え方が薄くなってしまった印象を持ちます。
- もう一点、授業内容に関して思ったことは、後半のロールプレイに関してです。おそらく、イマイチ感情移入できていないと授業者自身が感じていたのかもしれませんが。仮にそうだとすれば、もっとストーリーメイクをする必要があると思います。人が自分でない特定の人の気持ちになるためには、ある程度の設定と文脈がないと、考えるのが難しいと思うからです。とりわけ、高校生の社会認識から見ると、お年寄りや親世代の気持ちは感情移入しにくいからです。

※関連資料を配ります。